第43回日本医療薬学会公開シンポジウムを終えて

第43回日本医療薬学会公開シンポジウム
実行委員長　　白　石　　正
(山形大学医学部附属病院主任教授・薬剤部長)

去る10月23日(日)追手門パルズで開催された第43回日本医療薬学会公開シンポジウムは、東日本を中心に多くの薬剤師が参加し無事終了することができました。

本シンポジウムの企画に当たっては、今年の2月に日本医療薬学会から「在宅医療関連」をテーマとした公開シンポジウムの依頼でした。しかし。3月11日に東日本大震災が発生し、4 月に急遽テーマを「災害支援と薬剤師」に変更したい旨を日本医療薬学会へ打診したところ、本テーマでシンポジウムを行うことは有意義であるとの見解が得られ開催の運びとなりました。当初、参加者は山形県内および隣県の薬剤師と予測しておりました。ところが日曜日の午後開催にも関わらず東北各地区、東京、茨城、新潟、金沢、滋賀など遠路からの参加者および学生を含め約100名の参加者となりました。

基調講演では山形大学医学部救急医学講座の伊関憲先生が、歴史的過去の災害を振り返り今回の災害との相同性、災害時に薬剤師の役割とは何か、DMATに薬剤師が参加する必要性等を講演いただきました。また、山形県保健福祉部地域対策課の四柳雅彦先生は、今回の震災に当たり山形県として被災された宮城県、岩手県との連携、医療支援計画等についての取り組みおよび今後の対応をご講演いただきました。シンポジウムでは、実際に被災地支援や避難所での支援に活躍した4名の先生方にシンポジストとなっていただきました。東北大学病院の久道周彦先生は、被災地でありながら被災地支援を行うなど複雑な立場での薬剤師の業務について、ボランティアとして医療支援に参加した岡崎医療医学部前調剤薬局の金井栄一先生は、被災した石巻地区での巡回や地図をたよりに孤立した個々の住宅訪問による医薬品の不足状況の把握等大変苦労された状況を講演いただきました。山形大学病院の富永綾先生は、山形県の依頼を受けた山形大学医学部の医療支援スタッフとして岩手県宮古市および宮城県気仙沼市の両県に派遣され、医薬品の状況を詳細に調査した報告をしていただきました。また、山形市薬剤師会の岡嵜千賀子先生は、山形市内の避難所で福島方面等から多数の避難者が避難生活を送っている中、常用医薬品の聞き取り調査を行いデータの集積をするなど医療スタッフから高い評価を受けたことについて報告していただきました。本シンポジウムを通して、震災時に多くの薬剤師がそれぞれの立場から医療支援に活躍したことを改めて痛感いたしました。「震災は忘れたころにやってくる」と伊関憲先生の講演にもありましたが、今回の震災から再考することも多く、今後の備えを検討する必要性が大きいものと感じました。

最後に、御協力を頂いた山形県、山形県薬剤師会、山形市薬剤師会、東北病院薬剤師会、山形県病院薬剤師会の関係各位および講演を快く引き受けていただいた各演者の先生方に感謝申し上げます。